

2 災害時における医療

1 現状と課題

(1) 災害時における医療の提供

現 状	課 題
<p>○医療救護活動を開始する必要がある場合は、岡山県地域防災計画等に基づき、災害医療本部及び地域災害医療本部を設置し、関係機関と連携して災害時の医療救護体制を構築し、被災者の救護を行うこととしています。(図表7-2-2-1)</p> <p>○災害時に、迅速かつ的確な医療救護活動が行えるよう、日本赤十字社岡山県支部、岡山県医師会及び災害拠点病院と連携し、医療救護班やDMATを派遣する体制を整備しています。</p> <p>○災害時には、広域災害救急医療情報システム^{※1}により、医療機関の被災状況、患者受入状況、支援要否等の情報を関係機関で共有する体制を整備しています。</p> <p>○中国・四国9県、兵庫県との間で、災害時の医療救護活動について相互応援協定を締結しています。</p> <p>○災害時でも人工透析、難病患者等に対して、継続的な医療を提供できるよう、岡山県医師会透析医部会、市町村等と連携した医療供給体制を確立しています。</p> <p>○災害時の救急医薬品等については、岡山県薬剤師会等関係団体の協力により、確保・供給体制を確立しています。</p> <p>○災害時の医療用血液については、災害拠点病院、日本赤十字社岡山県支部、岡山県赤十字血液センター等関係機関と確保・供給体制を確立しています。</p>	<p>○災害時には、関係機関が連携しながら、被災者の医療救護活動に取り組む必要があるため、平時から、災害を想定した訓練や研修等により、災害時の対応能力を高めておく必要があります。</p> <p>○災害時には、複数の通信手段を確保しておく必要があります。</p> <p>○大規模災害が発生した場合に、国や他の都道府県と連携して広域医療搬送を実施するための具体的な手順等を確認しておく必要があります。</p> <p>○平時から、災害時を想定し、関係機関との連絡体制等を確認しておく必要があります。</p> <p>○災害時に、必要な数量の救急医薬品や医療用血液を迅速に確保できるよう関係機関との連絡体制等を確認しておく必要があります。</p>

○災害時には、災害精神保健医療情報支援システム※₂により、災害派遣精神医療チーム（DPAT）の派遣要請をはじめ、被災地の状況等の情報を共有する体制を整備しています。

○災害発生に伴う被災者等への心のケア対策を進める必要があります。

※1 広域災害救急医療情報システム（EMIS（イーミス））

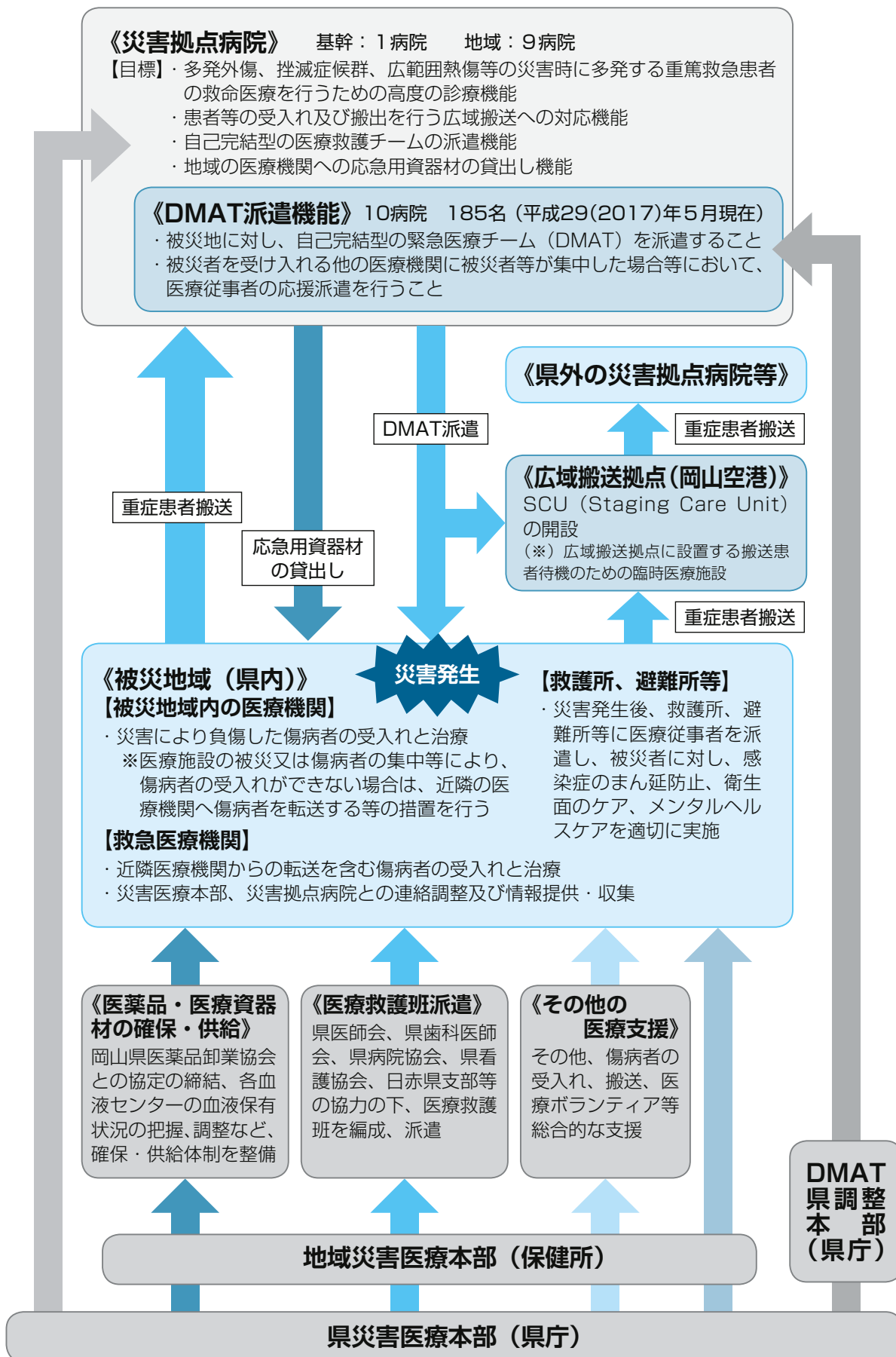
県では、災害発生時に医療機関の被災状況、傷病者の受け入れ状況、支援の要否等の情報を、市町村、消防機関、医師会、災害拠点病院、救急医療機関等と共有するために、国が整備・運用している「広域災害救急医療情報システム（EMIS）」を活用しています。

当該システムの情報は、国や他の都道府県と共有できるため、県域をまたぐ連携にも利用できます。

※2 災害精神保健医療情報支援システム（DMHISS（ディーミス））

災害発生時に災害派遣精神医療チーム（DPAT）の派遣要請・登録、被災地の情報提供、活動記録等の情報を共有するために活用しています。

図表7-2-2-1 災害医療の連携体制



(資料：岡山県医療推進課)

(2) 災害拠点病院・災害時精神科医療中核病院

現 状	課 題
<p>○災害拠点病院※₁として、県内の10病院を指定しています。(県南東部保健医療圏では5病院、県南西部保健医療圏では2病院)</p> <p>○県内の災害拠点病院の耐震化率は60.0%で全国平均(87.6%)を大きく下回っています。</p> <p>○災害時精神科医療中核病院※₂として、岡山県精神科医療センターを指定しています。</p>	<p>○耐震化が未了の施設では、災害発生時に被災者等への医療を提供できないおそれがあるため、災害拠点病院の耐震化を進める必要があります。</p>

※1 災害拠点病院

災害拠点病院とは、地域の災害医療の拠点となり、中心的な役割を担う医療機関として都道府県知事が指定するもので、主に次のような機能を有しています。

- ・災害時に多発する重篤救急患者(多発外傷、挫滅症候群、広範囲熱傷等)の救命医療を行うための高度な診療機能
- ・傷病者等の受入れ及び搬出を行う広域搬送への対応機能
- ・災害派遣医療チーム(DMAT)等自己完結型の医療救護チームの派遣機能
- ・地域の医療機関への応急用資器材の貸出し機能

また、災害拠点病院は、「地域災害拠点病院」と、その機能を強化し、災害医療に関して都道府県の中心的な役割を果たす「基幹災害拠点病院」に区分されます。

※2 災害時精神科医療中核病院

災害時精神科医療中核病院とは、災害時の心のケアに関する中心的な役割を担う医療機関として都道府県知事が指定するもので、主に次のような機能を有しています。

- ・災害発生時における精神科医療の提供
- ・県内精神科医療施設の被災により入院患者の転院が必要となったときの転院調整
- ・被災した精神科医療施設への支援
- ・DPATの受入・派遣調整
- ・災害時の対応に係る研修等の開催

図7-2-2-2 岡山県の災害拠点病院・災害時精神科医療中核病院一覧表

(平成30(2018)年4月1日現在)

区分	医療機関名	所在市町村	備考
基幹災害拠点病院	岡山赤十字病院	岡山市北区	全 県
地域災害拠点病院	岡山済生会総合病院	岡山市北区	県南東部
//	(独) 国立病院機構岡山医療センター	岡山市北区	//
//	岡山大学病院	岡山市北区	//
//	岡山市立市民病院	岡山市北区	//
//	川崎医科大学附属病院	倉敷市	県南西部
//	(公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	倉敷市	//
//	高梁中央病院	高梁市	高梁・新見
//	総合病院落合病院	真庭市	真 庭
//	津山中央病院	津山市	津山・英田
災害時精神科医療 中核病院	岡山県精神科医療センター	岡山市北区	全 県

(資料：岡山県医療推進課、健康推進課)

(3) 災害派遣医療チーム (DMAT_{※1})・災害派遣精神医療チーム (DPAT_{※2})

現 状	課 題
<p>○災害拠点病院において、国や県が実施するDMAT養成研修等、専門的トレーニングを受けた災害派遣医療チーム (DMAT) の確保を進めています。</p> <p>○県と災害拠点病院との間で「おかやまDMATの出動に関する協定」を締結し、関係機関が連携して組織的な活動を行う体制を整備しています。</p> <p>○災害時精神科医療中核病院において、災害時の医療提供・調整、災害派遣精神医療チーム (DPAT) _{※2}に関する体制を整備しています。</p>	<p>○おかやまDMAT隊員として、現在、185人が災害拠点病院に勤務していますが、さらにDMAT隊員の養成確保に努める必要があります。</p> <p>○DMATが関係機関と連携しながら災害発生後の急性期から迅速かつ適切な活動ができるような体制の整備を進める必要があります。</p> <p>○大規模災害に対応した精神科医療及び精神保健活動の支援を行える連携体制の構築を進める必要があります。</p>

※1 災害派遣医療チーム（DMAT（ディーマット）Disaster Medical Assistance Team）

災害発生後の急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持った、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療従事者で編成されるチームです。

岡山県では全ての災害拠点病院がDMATを保有しており、185名がおかやまDMAT隊員として登録されています（平成29（2017）年4月1日現在）。

DMATが災害の急性期から迅速に活動できるよう、県と災害拠点病院との間でDMATの出動に関する協定を締結しています。

※2 災害派遣精神医療チーム（DPAT（ディーパット）Disaster Psychitric Assistance Team）

大規模災害等の後に被災者及び支援者に対して、被災地域の精神保健医療ニーズの把握、他の保健医療体制との連携、各種関係機関等とのマネージメント、専門性の高い精神保健医療の提供と精神保健活動の支援のため、研修・訓練を受けたチームです。

図表7-2-2-3 岡山県のDMAT指定機関一覧表（平成30（2018）年4月1日現在）

区分	医療機関名	所在市町村	おかやまDMAT 隊員数
基幹災害拠点病院	岡山赤十字病院	岡山市北区	33
地域（県南東部）	岡山済生会総合病院	岡山市北区	20
地域（ // ）	（独）国立病院機構岡山医療センター	岡山市北区	14
地域（ // ）	岡山大学病院	岡山市北区	19
地域（ // ）	岡山市立市民病院	岡山市北区	16
地域（県南西部）	川崎医科大学附属病院	倉敷市	20
地域（ // ）	（公財）大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	倉敷市	19
地域（高梁・新見）	高梁中央病院	高梁市	9
地域（真庭）	総合病院落合病院	真庭市	16
地域（津山・英田）	津山中央病院	津山市	19

（資料：岡山県医療推進課）

(4) SCU (Staging Care Unit : 広域搬送拠点臨時医療施設)

現 状	課 題
<p>○県内で災害が発生した場合に、傷病者を、被災地外の航空搬送拠点や災害拠点病院等に、航空機による医療搬送を行う必要があれば、そのための拠点施設として、岡山空港に、医療資機材を備えたSCU（広域搬送拠点臨時医療施設）を設置することとしています。</p>	<p>○SCUの設置・運営は、(独) 国立病院機構岡山医療センター、岡山大学病院、川崎医科大学附属病院が中心となり行いますが、平時の訓練により、それに慣れておく必要があります。また、これらの病院が被災した場合に備えて、他の災害拠点病院でも設置・運営が可能な体制を整備する必要があります。</p>

(5) NBC災害・テロ対策

現 状	課 題
<p>○放射性物質による災害等に対応できるよう、初期及び二次被ばく医療機関並びに活動マニュアルを定めるなど、被ばく医療体制を整備しています。</p> <p>○生物及び化学物質による災害等に対応できるよう、原因物質特定のため川崎医科大学附属病院に化学中毒物質解析機器を整備するとともに、3救命救急センター（川崎医科大学附属病院、岡山赤十字病院及び津山中央病院）に防護服、防毒マスク、除染テント及び簡易劇毒物検査キットを整備しています。</p>	<p>○NBC（N：核物質、B：生物剤、C：化学剤）による災害・テロには、特別な対応が求められることから、訓練等を通じ、医療従事者の対応力向上を図る必要があります。</p>

2 施策の方向

項 目	施策の方向
災害時における医療の提供体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時には、様々な医療ニーズが急増することから、ニーズに応じた迅速かつ的確な医療救護活動が行えるよう、災害医療コーディネーター^{※1}による調整業務を円滑に遂行できる体制の確保に努めるとともに、災害拠点病院と地域の医療機関等による傷病者等の受入・搬送体制の構築を推進します。また、県医師会等と連携し、JMAT^{※2}や医療救護班等医療従事者の確保を図ります。 ○本県で大規模災害が発生した場合に、他県からのDMATやJMAT等を円滑に受け入れるための体制の整備を進めます。 ○医療機関の被災情報等を共有できるよう、広域災害救急医療情報システム、防災行政無線、衛星携帯電話等を用いた各種訓練や研修等を実施します。 ○訓練の実施により、SCU（広域搬送拠点臨時医療施設）の設置・運営能力の向上に努めます。 ○医療機関と消防本部等との連携強化を図るため、災害現場における本部・救護所等の設営訓練やトリアージ^{※3}、応急処置、傷病者の搬送訓練等を実施し、災害発生時の対応能力の強化に努めます。 ○国が実施する大規模地震時医療活動訓練等に参加し、広域搬送を実施するための具体的な手順を確認し、広域搬送体制の強化を図ります。 ○災害時に人工透析、難病患者等へ必要な医療の提供が確実になされるよう、関係機関と連携し、岡山県医師会透析医部会災害時情報ネットワークの活用等により、患者情報の把握、受入体制の整備に努めます。 ○災害時に救急医薬品、医療用血液等の確保・供給が確実になされるよう、岡山県医薬品卸業協会、岡山県薬剤師会、岡山県赤十字血液センター等関係団体と連絡手順等の確認を行い、体制強化に努めます。 ○災害派遣精神医療チーム（DPAT）の研修会を実施するなど、行政機関、県内医療機関との連携強化に努めます。 ○災害時に医療の支援が必要となる妊産婦・新生児等について、適切に対応できるよう、小児・周産期医療に特化した調整役である災害時小児周産期リエゾン^{※4}の養成訓練を通じて、実働可能な体制を整えます。また、日本産科婦人科学会が構築した大規模災害対策情報システムの分娩取扱い施設の情報を有効に活用できる体制の整備を進めます。
災害拠点病院の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時にも切れ目なく医療を提供できるよう災害拠点病院や災害時に重要な役割を担う地域の中核病院等の耐震化を促進します。

災害派遣医療チーム (DMAT) の整備	○被災者の救命率向上を図るため、DMAT隊員の養成・確保に努めるとともに、DMAT隊員の技能維持・向上及び消防等関係機関との連携強化に取り組みます。
NBC災害・テロ対策	○NBC災害やテロに備え、災害拠点病院等と連携し災害等発生時における連携体制や対応能力の強化を図ります。
災害時における心のケア	○被災者の心的外傷後ストレス (PTSD) などに対する心のケア対策が行えるよう、「災害派遣精神医療チーム (DPAT)」の整備を図り、避難所等における精神科医療の支援体制づくりを進めます。

<p>※1 災害医療コーディネーター</p> <p>災害発生時に医療救護活動が迅速かつ的確に実施されるよう調整等を行うため、知事が委嘱した医師等です。</p> <p>現在19名が委嘱されており、県災害医療本部等に対するの助言、医療救護班の派遣調整等災害時の医療に関する調整等を行うこととしています。</p> <p>※2 JMAT (ジェイマット)</p> <p>日本医師会災害医療チーム (Japan Medical Association Team) は、被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生を回復し、地域医療の再生を支援することを目的としています。JMATの活動内容は、主に災害急性期以降における、避難所・救護所での医療や健康管理、被災地の病院・診療所の支援です。</p> <p>※3 トリアージ</p> <p>災害発生時など多数の傷病者が発生した場合に、効率的に搬送や治療を行うため、傷病の程度や処置の緊急度に応じて治療・搬送の優先順位を決定することです。</p> <p>※4 災害時小児周産期リエゾン</p> <p>大規模災害の発生時に小児・妊産婦に関する情報を収集し、他機関での医療が必要な場合には、災害医療コーディネーターと連携して被災地内外の適切な医療機関への搬送をコーディネートする調整役です。</p>

3 数値目標

項目	現 状	平成35年度末目標 (2023)
災害拠点病院及び救命救急センターの耐震化率	60.0% H28年度 (2016)	100%
DMAT隊員数	185名 H29.4.1 (2017)	500名

【災害医療】

【ストラクチャー指標】 ※医療サービスを提供する物質資源、人的資源及び組織体制を測る指標

区分	指標名	調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
				全国	岡山県	
災害時に 拠点となる 病院	災害拠点病院の数	H28年度 (2016) (毎年)	医療計画策定 に係る 現況調査	725病院	10病院	
	災害拠点病院における 業務継続計画の策定率	H28年度 (2016)	県独自調査		20.0%	
	広域災害救急医療情報 システム(EMIS)への登録率	H28年度 (2016) (毎年)	医療計画策定 に係る 現況調査	100.0%	100.0%	
	災害拠点病院のうち、 DMATを有している 病院の割合	H28年度 (2016) (毎年)	県独自調査		100.0%	
	複数の災害時の通信手段の確保率	H28年度 (2016) (毎年)	都道府県調査		100.0%	
	多数傷病者に対応可能な スペースを有する 災害拠点病院の割合	H28年度 (2016) (毎年)	都道府県調査		100.0%	
	病院の耐震化率	H28年度 (2016) (毎年)	病院の耐震 改修状況調査	87.6%	60.0%	
災害時に 拠点となる 病院以外の 病院	災害拠点病院以外の病院の数	H28年度 (2016) (毎年)	医療計画策定 に係る 現況調査	8,137病院	153病院	
	災害拠点病院以外の病院に おける業務継続計画の策定率	H28年度 (2016)	県独自調査		14.4%	
	広域災害救急医療情報 システム(EMIS)への登録率	H28年度 (2016) (毎年)	医療計画策定 に係る 現況調査	93.2%	100.0%	
都道府県	医療活動相互応援態勢に関わる 応援協定等を締結している 都道府県数	H28年度 (2016) (毎年)	県独自調査		8県	
	おかやまDMATの隊員数	H28年度 (2016) (毎年)	県独自調査		185人	

【災害医療】

【プロセス指標】 ※実際にサービスを提供する主体の活動や、他機関との連携体制を測る指標

区分	指標名	調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
				全国	岡山県	
災害時に 拠点となる 病院	被災した状況を想定した災害実働訓練を実施した病院の割合	H28年度 (2016) (毎年)	県独自調査		60.0%	
	基幹災害拠点病院における県下の災害関係医療従事者を対象とした研修の実施回数	H28年度 (2016) (毎年)	県独自調査		1回	
災害時に拠点となる病院及び災害時に拠点となる病院以外の病院	EMISの操作を含む研修・訓練を実施している病院の割合	H28年度 (2016) (毎年)	県独自調査		71.5%	
災害時に拠点となる病院、災害時に拠点となる病院以外の病院及び都道府県	災害時の医療チーム等の受入を想定し、都道府県災害対策本部、都道府県医療本部で関係機関（消防、警察等）、公共輸送機関等との連携の確認を行う災害訓練の実施回数	H28年度 (2016) (毎年)	医療計画策定に係る 現況調査	75回	1回	
	災害時の医療チーム等の受入を想定し、関係機関・団体等と連携の上、保健所管轄区域や市町村単位等で地域災害医療対策会議のコーディネート機能の確認を行う災害訓練の実施回数	H28年度 (2016) (毎年)	医療計画策定に係る 現況調査	66回	0回	
	広域医療搬送を想定し、都道府県災害対策本部、都道府県医療本部で関係機関（消防、警察等）、公共輸送機関等との連携の確認を行う災害訓練の実施箇所数及び回数	H28年度 (2016) (毎年)	医療計画策定に係る 現況調査	28回	0回	

【アウトカム指標】 ※医療サービスの結果としての住民の健康状態を測る指標

区分	指標名	調査年 (周期)	調査名等	現状		備考
				全国	岡山県	
	(該当なし)					